地区スローガン:「クラブが主役となり、奉仕の理念の実践を!」

クラブ方針: 「扉を開こう!そして一歩踏み出そう!! ≪Open the door! And take a step≫」

国際ロータリー第2790地区 第3グループ

千葉西ロータリークラブ

Rotary Club of Chiba-West EEKLY COMMUNICATION 創 立 1976年1月20日 承 認 1976年2月25日

会 長 藤﨑泰裕 幹事木村龍次

千葉スカイウインドウズ 東天紅 センシティタワー23階 例会場

TEL 043-238-5555 例会日 毎週火曜日 12:30~

事務局 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階

TEL 043-245-3202 FAX 043-245-7522 E-mail: chibawestrc@wrpc.co.jp

URL: http://www.chibawest-rc.net/

■ 会長挨拶 / 藤﨑泰裕 会長

今日は点鐘についてお話ししたいと思います。ロータリーの伝統や文化を肌で感じる機会が多々あ ります。入会当初は、何も分からず、何もかもが新鮮で驚きなのですが、その中でも印象的なのは、 JC(青年会議所)OBの方々は別として、例会の開始と終了に点鐘を鳴らすということではないでしょ うか。

そこで点鐘について調べてみました。確か当初PCで「てんしょう」と打っても出てこなかった記憶 がありますが、造語かと思いましたが、しっかりとありました。まず、英語では Ship's bell や Time bellと訳され、もともとは、大航海時代に船上で時間を知らせる鐘だったようです。

時計がなかった昔、正確な時間を知るのは正午に太陽の高度が最大になった 12 時だけで、正午以 降は、30 分毎に砂時計をひっくり返し時間を加算していくことで、時刻を知る時代がありました。そ のため、砂時計をひっくり返えす30分毎に、タイムベルを鳴らして船内に時間を知らせていたそうで

す。元々は、時報のためだったのですね。

現在では、例会の「儀式」のひとつとして会長が点鐘を鳴らしますが、学校のチャイムのように鳴ったら「開始時間が来た」 ということでスタートし、また、次の時報で「終了時間が来た」ということで終了するのが本来の姿なのかもしれません。 また例会で点鐘をするのは、世界の例会では少ないとのことで、日本独自というわけではありませんが、周りを海で囲まれ、 船に馴染みの多い日本らしいと言えるかもしれません。

そう言えば、国旗とクラブ旗やバナーなど例会のディスプレイに使うのは、船上のような雰囲気を出すためかもしれません。

■ 四つのテスト / 花光和久 会員

「言行はこれに照らしてから」 真実かどうか みんなに公平か 好意と友情を深めるか みんなの為になるかどうか



■ お客様

平松孝朗 様(千葉 RC) 小川智之 様(千葉 RC) 劉 子悦 くん (米山奨学生)

■ 委嘱状の授与

ロータリー平和センター受入 19 期生 カウンセラー 野口アキ子 会員











■ 2021-22 年度役員理事の指名

今野文明、花嶋 実、渡辺岳仁、藤崎泰裕、西川 昇、本橋和也、大森 薫、遠藤あけみ 各会員

北村悠介、桜井隆宏、木村龍次、前田善弘、前野拓郎、野城隆憲、長坂圭将、須藤郁雄、飯高喜代志 各会員 ※立候補・推薦がある場合は1ヶ月以内に幹事へお申し出ください

■ 幹事報告

なし

■ 委員会報告

野球同好会…試合結果報告

先般 10月 24日(土) 宮野木球場におきまして千葉幕張RCと対戦しました。24-5で快勝でした。 ありがとうございました。OB まのしんさん、習志野中央 RC 高橋さんのホームランがございました。



■「緊急事態宣言中の自粛生活」 海寶勘一 会員

4月7日政府から、武漢発祥のコロナ禍緊急事態宣言が首都圏中心に発令されたのが、今でははっきり記憶に残っていない程月日が経ちましたが、まだたったの半年前のことです。この日以来世間は自粛生活を強いられ、常に手洗いとうがいを励行しマスクを着用しました。テレビで報道されるコロナ感染についての特別番組を注意して観るのが日常になりました。どこでも三密にならないように注意し、たまに乗った JR 電車は間隔を開けて着座するのが礼儀になって、換気の為に窓を開けて、がら空きの空間が新鮮でした。

毎日テレビで報道される感染者数の推移に一喜一憂、豪華客船ダイヤモンドプリンセス号の集団感染が、 不安感を大きくさせました。日が経つに従って閉塞感が強くなって、憂鬱な感情が精神的に負担となる日常になりました。

クラブ例会も緊急事態宣言を受けて特別休会となり、毎週例会があることが普通とした生活から、全てが静の世界になった時空が物悲しく感じてきました。街中で会う人々は、様々なマスク姿で、場合によってはその人が誰なのかわからない時が数度ありました。外出時だけにマスクをつける習慣があっても、時々忘れてしまうことも起こり、カバンの中や車にも複数枚のマスクを持参することが常用になりました。

異常気象と言われた猛暑のなかでも、マスクを着用したことが不思議なくらい健康保持の為に我慢ができたように思います。これほど全国どこでもが重苦しく管理された非常事態を経験するのは戦後初めてのことだと思うし、日々憂鬱な時間が日常化した。最低限の経済活動と日常生活の為に、人静かな街中とは裏腹の家庭生活は、テレビ報道がマンネリ化して、解説や発生状況の情報番組も飽きを感じました。

このころからやったことのない Zoom が日常化して、毎日のように Zoom 会議が重なって、ほぼ一日中パソコンとにらめっこの日が多くなりました。最初は物珍しく興味が湧いた会議も、回数が増してくると憐れみが感じられるようになりました。いま改めて報道されている用語を振り返ってみれば、様々な聞きなれない言葉が日常化されてきたことが分かります。

コロナ禍で緊急事態宣言をうけて「三密」を避けた「自粛生活」の「テレワーク」とはオフイスから離れて勤務する意味ですが、1984 年に NEC 日本電気が国内で初めて取り入れたそうです。

「ステーホーム」で利用している「Zoom」は世界で2億人が毎日利用しているオンラインの機能ですが、利用の仕方で「リアルとリモートおよびハイブリッド」様式を呼び合っています。「社会的距離・ソーシアルディスタンス」を守りながら、「アベノマスクや不織布マスク」をして、「外出移動禁止・ロックダウン」や「爆発的患者急増・オーバーシュート」がないように心がけが必要です。

「医療崩壊」を起こさないために「飛沫感染や接触感染や濃厚接触」を避けながら「夜の街」には一切縁がないです。世界中でも、いまだに終息がみえない新型コロナウイルス禍状況ですが、皆さんと一緒になって、「集団感染クラスター」が起きなく「感染爆発パンデミック」を絶対に起こさないようにしたいものです。その為にも、時には「疫病退散アマビエ:アマビコ」の謂れを信じてみるのも効能の一つかもしれません。

近々に「ワクチンのアビガンや人工肺のエクモ」の効能が高まってくれて、「専門家会議」においても終息宣言が一日も早くでることを願っています。

個人的になりますが、4月、5月、9月、コロナ禍で病院スタッフの人手が心配されましたが、かかりつけの病院を利用して、身体のメンテナンスを行っていました。目的は 10 年前に罹患した病気の再検査で、三回とも 4 日間ずつ外泊しましたが、病院内の対応は徹底した感染予防体制がされていました。

アルコール消毒やマスクは厳しく管理されましたし、病棟内への家族の出入りは厳しく制限されていましたので、一番安心安全な聖域でした。いつも思うことは、病院内で活躍する様々なポジションで活躍する医療スタッフの、献身的なサービス精神に感銘をうけました。

メンテナンス中の状況下で何冊かの本を読み漁っている中で、人生訓の言葉が目に入りスマホのメモに記録を残すことを病院生活の中で試み、精神的に充実した素晴らしい体験になり、ロータリー精神 the ideal of service そのものを学ぶことができました。



松下幸之助翁の5つの名言

- 1- 松下電器は人をつくっています。電気製品も作っていますが、その前に、先ずは世の中でお役に立てる人をつくっています。
- 2- 自らの熱意と工夫を持たずして、自らを育てていくという覚悟なくにして、自らの成長はありえない。 適切な指導者がいればまたよし、いなければそれもまたよし。みずからが考案してやっていくことが、ほんとうの修練となり、成長もできると考えます。
- 3- 事業を通じて、社会に貢献するという使命を遂行すれば、その報酬として、社会から与えられるものが利益になります。
- 4- 事業は人なり、それは発意、実行、反省です。
- 5- 悪い時が過ぎれば、良い時は必ず来る。おしなべて、ことを成す人とは、必ず時の来るのを待つ人です。あせらずあわてずに、静かに時の来るのを待つ人には、時を待つ心は春を待つ桜といえよう。だが、何もしないで待つことは、僥倖を待つに等しい。静かに春を待つ桜は、一瞬の休みなく力を蓄えている。その蓄えた力が無ければ、時が来ても事は成熟しないであろう。

最後になりますが、人生訓として座右の銘にしている言葉を紹介します。100歳で亡くなった禅宗長谷寺の松原泰道老師がよんだ、「あれを見よ、深山の桜咲きにけり、真心尽せ人知らずとも」の歌です。

幸之助翁の思考と泰道老師の言葉こそ、真のロータリー精神そのものだと受け止めて、今後の人生の糧にしていこうと思います。



10/25 日・26 月 米山研修旅行・ホテルブルーベリーヒル勝浦



😂 ==== BOX

- ・海寶…卓話の時間を頂き感謝!
- ・花嶋…海寶会員の卓話を聞いて感動いたしました
- ・川島治代…山本康昭会員 米山奨学金へ多額のご寄付にご協力ありがとうございます おかげさまで目標達成に近づきました
- ・藤崎…海寶 PP ありがとうございました
- ・今野…本日は次年度の役員理事指名がありました よろしくお願い致します!
- ・遠藤あけみ…紅葉の美しい季節となりました 皆さま 体調に留意され 11 月をお迎えくださいな
- ・須藤伸明…さわやかな秋が続き仕事がんばってまーす

i j		総数	本	出	席	前	メーキャップ	本日の出席率	=	本日の合計	次	■ 次週プログラム
千葉西ロータリー		52名	日の	4	41 _名		0名	89.13 %		17,000 円 プ	プ	11月3日 (火) 祝日により休 (文化の日)
			出欠	欠	欠席修	欠 席	前々回の出席率	В	本年度累計	グ	11月10日(火) 会員卓話 野城隆憲 会員	
	7 7	46 ≉	席		5名	Ē	11 名	81.25 %	O X	468,000 _₱	ラム	「緊急事態宣言中の自粛生 12:30点鐘 千葉スカイウインドウズ 東ラ

会

生活」 天紅

クラブ広報・ロータリー情報委員会 【委員長】北村悠介 【副委員長】海寶勘一 【委員】嶋田 悠 *前田善弘 *桜井隆宏 *高橋健一郎 *中村武弘